

大阪重粒子線センターが、初発膵臓がんに対する治療成績を報告 標準化学療法先行例で、初回治療開始からの生存期間中央値は約30カ月

公益財団法人大阪国際がん治療財団(大阪市、理事長:平野俊夫)が運営する重粒子線がん治療施設「大阪重粒子線センター」は、初発膵臓がん患者92例を対象に、重粒子線治療の治療成績を解析した結果、現在の標準化学療法であるFOLFIRINOX(フォルフィリノックス)やGnP(ゲムシタビン+ナブパクリタキセル)を事前に受けた患者群で良好な生存成績が得られました。

解析の結果、初回治療開始日からの生存期間中央値はFOLFIRINOX群で33.6カ月、GnP群で29.8カ月と良好な成績が示されました。患者背景や治療選択の違いによる影響があるため、単純な比較は困難であるものの、従来報告されている標準化学療法による生存期間中央値約21.3-23カ月※1を上回り、化学療法に重粒子線治療を組み合わせることで恩恵を得られる患者群が存在する可能性が示唆されました。

また、重粒子線治療後に救済手術が施行された9例では、各症例の最終確認時点まで局所再発を認めていません。

※1 出典元: Ozaka M, et al. *Eur J Cancer* 2023.(JCOG1407)
[https://www.ejancer.com/article/S0959-8049\(22\)01816-0/fulltext](https://www.ejancer.com/article/S0959-8049(22)01816-0/fulltext)

■膵臓がんの治療実績解析の背景

国立がん研究センターが公表する全国がん登録生存率データによれば、膵臓がん患者の5年相対生存率は13.2%(2018年診断例)※2にとどまり、依然として予後不良ながんの一つとされています。

近年、FOLFIRINOXやGnPなど有効性の高い化学療法の普及により、生存期間が延長され、長期生存例では局所制御の重要性が増大しています。

また2022年4月から、手術による根治的切除が困難な局所進行性膵臓がんに対して、重粒子線治療が保険適用となりました。

そのような状況下で、膵臓がんでの重粒子線治療は「どの患者に、どのタイミングで行うべきか」という治療計画について、まだ十分な知見が蓄積されていません。大阪重粒子線センターは初発膵臓がん92例を解析し、重粒子線治療の知見を得るため、治療成績を評価しました。

※2 出典元: 国立がん研究センター 全国がん登録生存率データ
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/10_pancreas.html

■ 本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 大阪国際がん治療財団 大阪重粒子線センター

広報企画課 担当: 西雄 みどり Mail: m.nishio@osaka-himak.or.jp

西澤 麻依 Mail: m.nishizawa@osaka-himak.or.jp

TEL: 06-6947-3210 FAX: 06-6947-3211 〒540-0008 大阪市中央区大手前3-1-10

■膵臓がんに対する大阪重粒子線センターの治療成績

初発膵臓がん 92 例を対象とした解析

対象:2018 年 12 月～2022 年 10 月に重粒子線治療を開始した症例

- ・年齢中央値 74 歳
- ・73.9%が cT4(主要血管への浸潤を伴う高度進行例)

●重粒子線治療開始日を基準とした治療成績

評価項目	2 年成績	生存期間中央値 (MST)
2 年全生存率 (OS)	46.3%	21.3 カ月
2 年局所制御率 (LC)	60.7%	29.9 カ月
2 年無増悪生存率 (PFS)	22.5%	10.1 カ月

●重粒子線治療前化学療法 (NAC) 別の治療成績 ※初回治療開始日を基準とした生存期間

治療群	2 年全生存率 (OS)	生存期間中央値 (MST)
FOLFIRINOX 群	76.5%	33.6 カ月
GnP 群	53.9%	29.8 カ月
NAC なし	47.1%	19.4 カ月

●重粒子線治療前化学療法 (NAC) による腫瘍マーカーCA19-9 動態と予後

CA19-9 動態	生存期間中央値 (MST)
上昇	11.0 カ月
低下／不変	24.5 カ月

重粒子線治療前の化学療法中に CA19-9 が低下または不変であった群では、上昇した群より良好な成績が得られました。重粒子線治療を検討する際には、治療前の病勢や介入タイミングが重要である可能性が示唆されます。

●救済手術症例の成績

重粒子線治療後に救済手術が施行された 9 例:全例で局所再発なし(各症例の最終確認時点まで)。

●安全性と解析結果の解釈

Grade 4 以上の有害事象は認めませんでした。Grade 3 の急性期血液毒性を 3 例、晩期の胆管狭窄と腹水を各 1 例に認めました。また、有症状の圧迫骨折を 11 例(12.0%)に認めました。

注:OS=全生存率、LC=局所制御率、PFS=無増悪生存率、MST=生存期間中央値、NAC=(重粒子線)治療前化学療法。
FOLFIRINOX=フォルフィリノックス、GnP=ゲムシタビン+ナブパクリタキセル。
CA19-9=膵臓がん広く用いられる血液中の腫瘍マーカー。

【大阪重粒子線センターの概要】

- 名称：大阪重粒子線センター
- 場所：大阪市中心区大手前 3-1-10
- 治療・運営会社：公益財団法人 大阪国際がん治療財団
理事長 平野 俊夫
- 建物・施設管理会社：大阪重粒子線施設管理株式会社
(シップヘルスケアグループ)
- 治療開始：2018 年 10 月 16 日
※入院施設はございません。
- HP：<https://www.osaka-himak.or.jp/>

